

神戸山スキークラブ 若桜側氷ノ山・山スキー安全講習会 山行報告

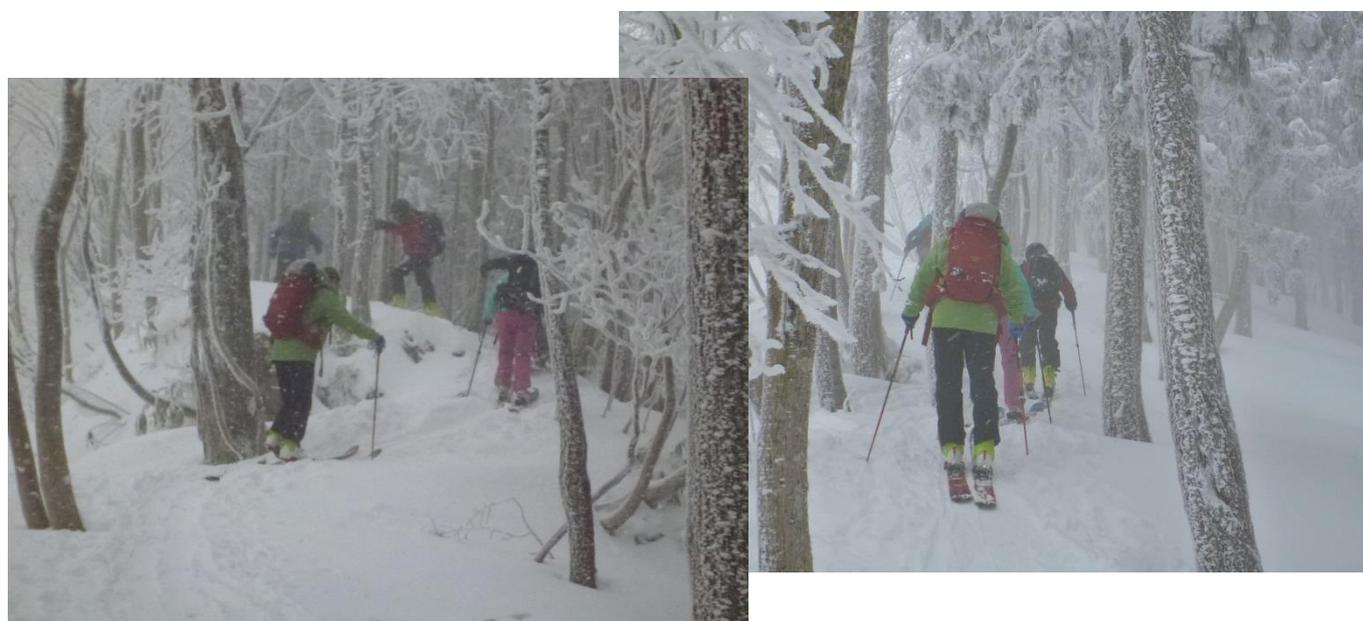
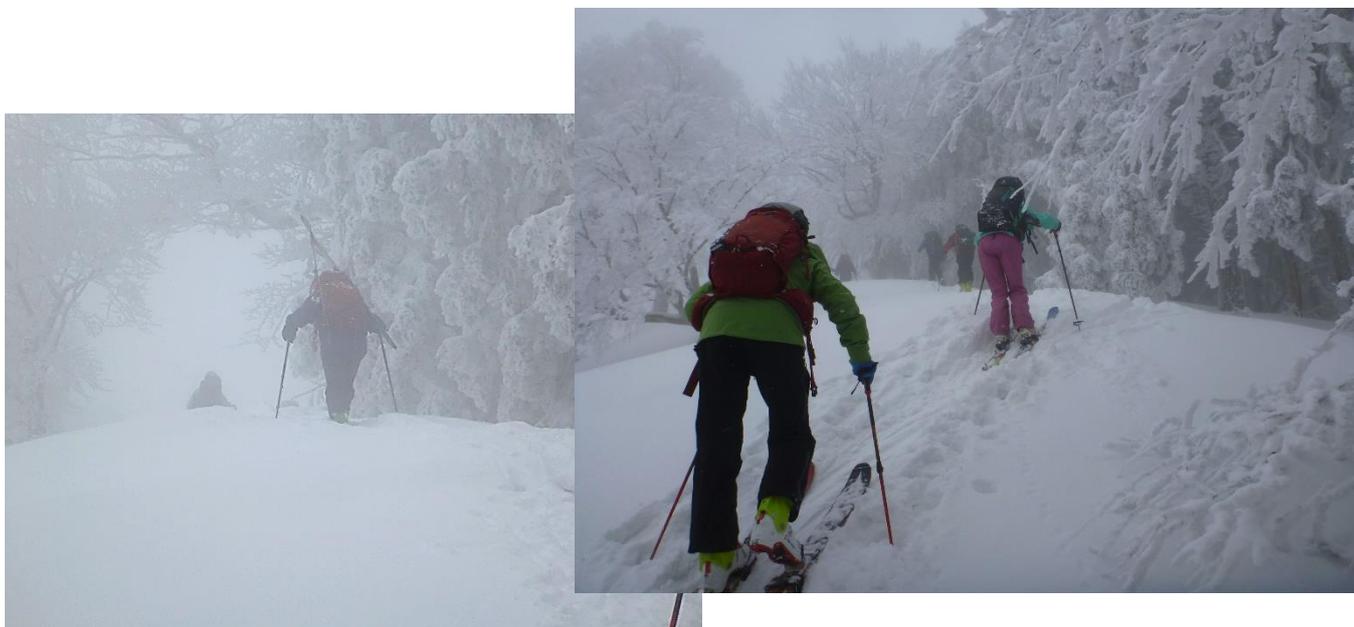
●日 程

平成 31 年 2 月 17 日 (日)

●参加者

和佐、堀井、平井、成田、山本(周)、行定、山本(貞)、小島(ゲスト)、中村 (計 8 名)

7時半集合、8時のリフト始発で、リフト終点まで登り、そこからシール登行する。途中、三の丸の避難小屋で小休憩。その後、わさび谷入口で、シールを外し、少し藪が濃いようだが滑降可能な積雪があると判断し、わさび谷の滑降を最終確認した。2日前までは、表面が融解凍結層のカリカリの雪面であったと考えられた。(なお、シールを忘れたメンバー1名は、途中までツボ足で途中まで参加するが、早い段階でスキー場に戻った。)





三の丸避難小屋



わさび谷源頭



(当日の雪質)

わさび谷源頭にて、2組に分かれ近傍2か所でピットを掘る。深さ100cm程度のザラメ雪をメインとする固い深い融解凍結層があり、その上に前日の湿雪降雪層20~30cmが乗っている状態。

しかし、両層の接触面は強固に結合しており、ショベルコンプレッションテストでも、不安定さはなかった。下記写真は、上部雪面を切り出し、横にして手で持っている状態。



わさび谷源頭

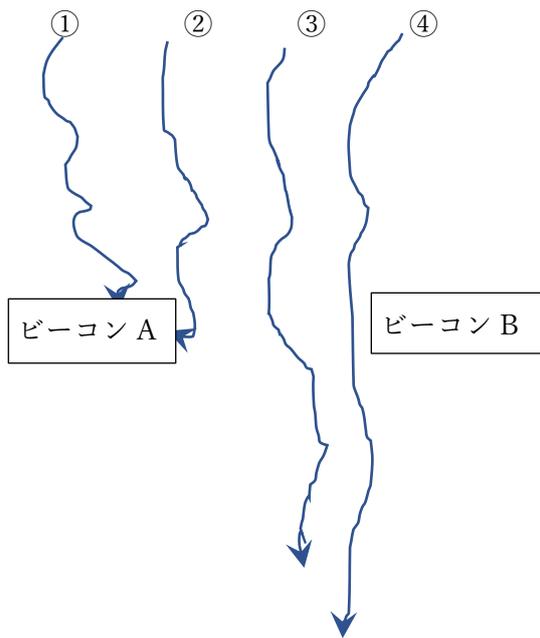


9名を4名と5名の荷分けし、滑走しながらビーコン電場を受信する「捜索班」と埋め隠しと行動観察をする「準備・観察班」の2班とした。2回実施することでそれぞれの役割を相互体験した。

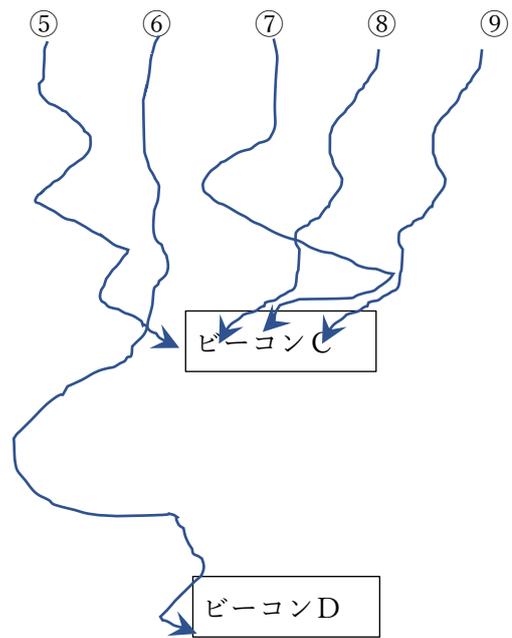
「準備・観察班」が予備のビーコン2台を発信状態にして、下方斜面に予めあらかじめ埋め隠し、その後、「捜索班」が埋没者想定 of ビーコン捜索やプローブの組み立てと使用、ショベルの使用などの捜索救助トレを実施した。



前半



後半



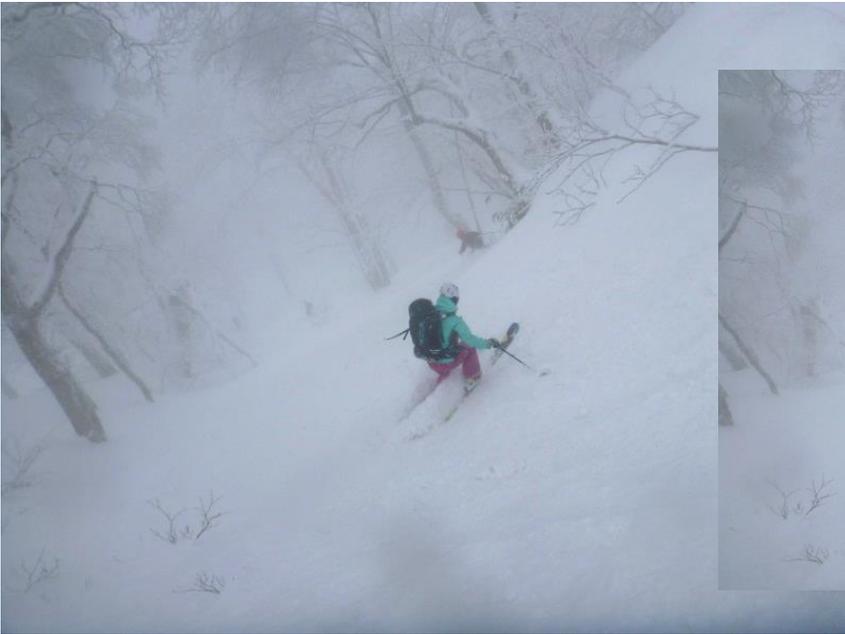
前半の4名による検索では、ビーコンAについて15分以内に位置特定することができたが、ビーコンBを特定することなく、かなり離れたところまで滑り降りてしまい、20分経過時に検索終了とした。

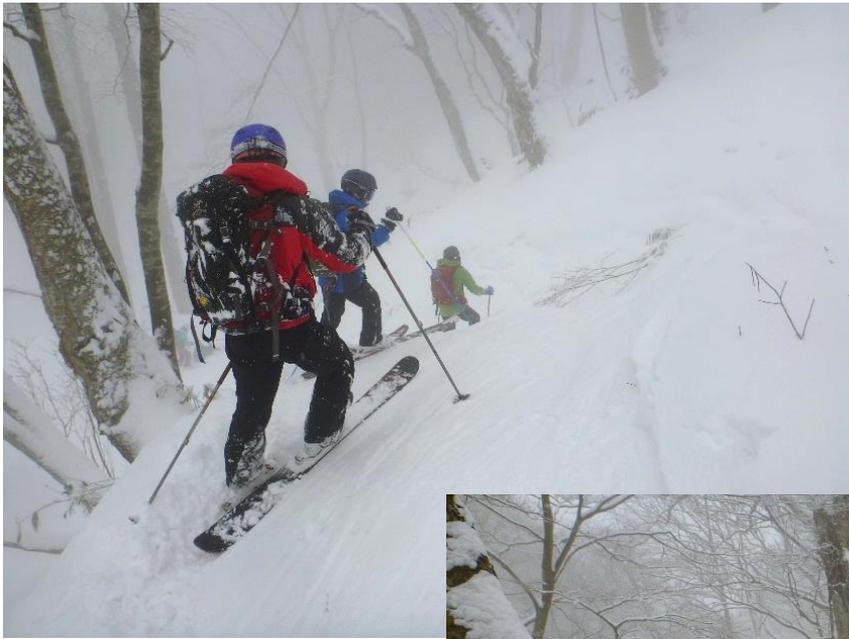
後半の5名による検索では、ビーコンCについては、10分以内におおよその位置は確認できたものの、その後の特定と掘り出しに時間を要したが、15分以内に掘り出しできた。なお、ビーコンDの掘り出しは、ビーコンCの掘り出しより先にできている。

今回の反省点を踏まえて、今後も、ビーコン検索トレを会員全員が毎年実施できるように啓発及び企画を実査していきたい。









14 時頃ゲレンデまで
下山し終了



事前自主トレ 山行報告 平成31年2月16日(土)

参加者 平井、成田、行定、山本(貞)、中村 (計5名)

2/17の講習会の前日に、希望者による自主トレを行った。

午前2時に明石SAで合流し、ハチ北に近づいた道路では2回ほどニホンジカに進路を阻まれながら、雨の中、ハチ北野間駐車場に到着時(5時過ぎ)。そこでも、雪ではなくしっかり雨が降っていたため、全員意気消沈。しかし、リフト運行前に小降りになったため、ウェアの防水を確認する目的と称して、8時から一日券を購入。

新品の山スキーセットを使用するメンバーがいたため、クトーとトールを付けた登行トレーニング、ビバーク時を想定したガスバーナーで雪からお湯を沸かす体験などを行った。

ゲレンデは、雨で濡れ、とても滑りやすく、山頂部は視界を悪いが小雪となった。ハチ北らか山頂部でハチ高原にも行く。昼から降雪があり、森林エリアで浅い新雪エリアの滑走も体験できた。

4時で切り上げその後、別途ゲレンデスキー中の小嶋さんと合流し、鳥取市内経由で、若桜町の若桜氷ノ山スキー場に移動し、高原の宿「氷太くん」宿泊し、翌朝の山スキー安全講習会に参加した。到着が19時を過ぎていたが、懇親会を兼ねた、部屋でおでん鍋の夕食で盛り上がった。

